

1  
研究

## JAXA 宇宙科学研究所と連携協定締結 本学教員が科学責任者 (PI) として X線天文衛星代替機の計画推進

Vol. 12  
August  
2017



▲ (左から) 山口学長、田代教授、堀尾研究科長、常田所長、満田研究総主幹

6月16日、大学院理工学研究科と国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(以下「JAXA」)宇宙科学研究所は連携協力に関する協定を締結しました。この協定は、JAXA 宇宙科学研究所が様々な衛星・探査機を使って収集する天体観測データを、広く当該分野以外の研究者でも容易に活用できるように、大学院理工学研究科の戦略的研究部門「X線・光赤外線宇宙物理領域」とJAXA 宇宙科学研究所が協力して、天体観測データの処理・アーカイブ・機器校正データベースと解析ソフトウェアの開発、及び人材育成を行うことを目的としています。

宇宙科学研究所が天文観測衛星の開発を通じて進めてきた装置開発とデータアーカイブ、ユーザーサポートの領域で培ったこれまでの蓄積と、大学として独自に進めてきた多波長にまたがる研究ネットワークを結合することで、天文観測衛星などから得られるデータを、より広く国内外の大学の研究者が利用しやすくなるよう、データの標準化やユーザーサポートを進めます。特に、X線天文衛星代替機(「ひとみ」ASTRO-Hの代替機)の計画においては、「X線・光赤外線宇宙物理領域」(2017年4月開設)領域長の田代信教授が、宇宙科学研究所とのクロスアポイントメント(混合給与)制度の活用により、両機関に籍を置きつつ、本計画の科学責任者(PI)として推進します。

協定の概要説明に続き、協定書への署名が行われ、堀尾健一郎研究科長と常田佐久所長がかたい握手を交わしました。その後、堀尾研究科長は「この連携は理工学研究科の活動の範囲を広げる。お互いを刺激し合うことで教育・研究のより一層の発展を目指したい」、常田所長は「科学衛星が今後ますます大型化・複雑化していく中で、科学衛星計画を実現していくためには、全国の大学と一体となった科学衛星計画を構築し、宇宙科学の裾野を宇宙研の外に広げて、日本全体の宇宙科学力を高めたいと考えている。本協定によって埼玉大学における宇宙科学研究が更に発展し、JAXAと手を携えて日本の学術の発展に寄与することを願っている」と抱負を述べました。

締結式に引き続いて記念講演会が開催され、満田和久研究総主幹は「2020年代のスペースからの宇宙物理学…もしくは私の知りたいこと」、田代教授は「X線でみる宇宙」というタイトルでそれぞれ講演を行いました。会場を埋めた100名ほどの埼玉大学生と両機関の関係者が熱心に耳を傾けました。



▲ 講演する田代教授



▲ 学生の質問に答える満田研究総主幹



▲ 来場者で一杯となった会場の様子

## 2 研究 平成 29 年度科学技術分野の 文部科学大臣表彰を本学教員 2 名が受賞

文部科学大臣表彰は、科学技術に関する研究開発、理解増進等において顕著な成果を収めた者について、その功績を讃えることにより、科学技術に携わる者の意欲の向上を図り、我が国の科学技術水準の向上に寄与することを目的として行われているものです。平成 29 年度において、本学からは、科学技術賞（研究部門）、若手科学者賞にそれぞれ1名の受賞者が決定しました。なお、表彰式は 4 月 19 日に文部科学省で執り行われました。



▲ 賞状を手にする  
(右) 斎藤教授 (左) 豊田准教授

賞名称	氏名 (所属)	業績名
科学技術賞 (研究部門)	斎藤 雅一 (大学院理工学研究科 教授)	重元素導入による芳香族性の概念拡張に関するπ電子系の研究
若手科学者賞	豊田 正嗣 (大学院理工学研究科/研究機構 准教授)	新規イメージング法を用いた植物の機械刺激感受機構の研究

## 4 地域 JR 埼京線 × 埼玉大学! 埼京線各駅で大学 PR ポスターを掲示

2015 年 6 月から始めた JR 埼京線と埼玉大学のコラボレーションによるポスター広告が、JR 大宮駅など埼京線各駅で掲載されました。JR 東日本大宮支社とは 2015 年 8 月に、大学周辺地域の魅力づくりや埼京線沿線の活性化、次世代の地域づくりを担う人材育成に向けた協定を締結しています。その取り組みのひとつとして、昨年に引き続き、今年も地域を盛り上げようと、大宮駅のデジタルサイネージや各駅でポスターを掲示しました。



## 6 産学官 県内 5 つの研究機関と連携 女性研究者が活躍する環境へ

6 月 6 日、埼玉大学と埼玉県の 5 つの研究機関は、女性研究者が活躍しやすい環境づくりに取り組むため、彩の国女性研究者ネットワークによる女性研究者活躍推進事業に関する覚書を締結しました。この事業では、環境科学国際センターや衛生研究所など埼玉県の研究機関と連携して女性研究者のネットワークを構築していきます。女性研究者交流会の開催、本学と研究機関の相互訪問等を行うなど女性研究者のスキルアップや研究力を高めるための取り組みを実施するとともに、研究者を目指す女子学生の育成を支援します。



▲ 挨拶する上條正仁会長

## 7 教育 人工知能 (AI) 搭載のロボットを 活用した英語教育の実証実験

6 月 29 日、教育学部附属幼稚園において、教育学部 山本利一教授とタケロボ株式会社が開発した人工知能 (AI) 搭載のロボットを使った英語教育の実証実験が行われました。園児 1 人に 1 台のロボットをあてて、会話をしながら英語を学ぶ取り組みで、山本教授のゼミ生や園児 30 名が参加しました。教育現場の AI 活用について、山本教授は「これからは子ども一人一人の能力に合わせた学修支援ができるようになる。」と



今後の期待を話しました。

- ◀ (左) 人工知能 (AI) を搭載したロボット (Robocot)
- ◀ (右) ロボットに英語で話しかける園児

## 8 教育 学生が全国舞踊コンクールで 第 1 位文部科学大臣賞を受賞!

3 月 23 日から 4 月 4 日の日程で、東京新聞主催第 74 回全国舞踊コンクールが開催され、現代舞踊第一部 (19 歳以上) において、高間淳平さん (教育学部保健体育専修 4 年、ダンス部所属) 演じる「八日目の蝉」が第 1 位 (文部科学大臣賞) に輝きました。同コンクールは 1939 年から続く最も伝統あるもので、舞踊芸術発展向上のため、次代を担う舞踊家の発掘育成を図る目的で毎年開催されています。例年、全国から約 1,300 人の若手舞踊家が、児童舞踊、邦舞、現代舞踊、群舞、創作舞踊、バレエの 6 部門、年齢別の 13 部に出場し、頂点を目指して競います。



◀ 「八日目の蝉」を演じる高間淳平さん  
戦地で友を失い、自らも命の危険に曝されながら生きようとする姿を、「八日目の蝉」に例えて演じました。

## 9 教育 【全学生対象】 LINE@ による キャリア・就職支援を開始しました

キャリア・就職支援として、全学生を対象とした LINE@ を開始しました。学生が日常的に利用している LINE を活用し、普段の学生生活のなかでキャリアを考える機会を提供していきます。具体的には、登録した学生にキャリア・就職支援に関するイベント・セミナー情報をお知らせするほか、アンケート機能を利用し、学生のニーズに合わせた企画等をしていきます。



10  
教育

## 「学長室を絵画で和やかに」 学生に感謝状を贈呈

「部屋に学生が描いた絵を飾りたい」山口宏樹学長の想いに2人の学生が応え、学長執務室と学長応接室に飾っています。今回は、教育学部4年の水野寧々さんと大学院教育学研究科2年の渡辺麻希さんが学長の想いに応えてくれました。4月19日は、指導教員の吉岡正人教授とともに学長応接室に招き、学長から感謝状を贈呈しました。その後の歓談では、学長は「学生の絵を飾れることはとてもうれしく、いつも自慢している」と話し、作品のモデルやタイトルはどのように付けたのかなど、美術話に花が咲きました。



▲ 水野寧々さん「愛の境界線」



▲ 渡辺麻希さん「耳鳴りの像I-色がある」

11  
教育12  
教育

## 多彩な講師陣に よる講義を開講

教養学部開設科目「International Development Policy and Management」(担当：加藤基コーディネーター)は、日本と世界の結びつきを第一線で担って活躍する方々を講師にお招きし、講義や意見交換を通じてグローバルな問題を理解し、視野を広げ、自分の意見を形成



▲ 講義するイニヤンガ臨時代理大使

することを目的としており、教養学部のほか他学部の学生や留学生など多くの学生が受講しました。4月20日は、アフリカのガボン共和国大使館フランス・ベルナルダン・イニヤンガ臨時代理大使が「国際協力の展望ーガボンと日本ー」

をテーマに講義。ガボンが積極的に取り組む地球規模での環境保護や生物多様性の保全などについて幅広く講義いただきました。学生たちは、ガボンがより身近で、重要かつ友好的な関係にあることを学び、アフリカに対する視野が広がりました。6月15日は、駐日欧州連合(以下EU)代表部を訪問し、フランчесコ・フィニ公使・副代表から「The EU in the World and EU-Japan Relations」をテーマに講義を受けました。第二次大戦後のEU成立の目的、日本とEUとの緊密な関係、エラスムス留学などの説明があり、講義後はフィニ公使と学生が懇談し、学内だけでは得ることのできない有意義な時間となりました。



▲ EU代表部での講義風景

13  
教育

## 東京ステーションカレッジ移転に伴う 開所式を開催

2017年4月に、これまでJR東京駅のビル内に設置してきたサテライトキャンパス「東京ステーションカレッジ」を、千代田区神田須田町に移転しました。この新たなスタートを記念し、6月2日に開所式を開催し、本学の関係者や来賓ら25名が新たな門出を祝いました。この度の移転は、



▲ 東京ステーションカレッジ

官界や産業界の第一線で活躍する専門家に現職のまま教育研究指導に参画いただくこと、通学の利便性などを考慮したもので、JR秋葉原駅を中心に私鉄を含め5つの駅に徒歩でアクセスが可能になりました。式典で山口宏樹学長は「社会人学生だけではなく、今後は留学生を含めた在学生と協働できるような場にしていきたい」とあいさつしました。

15  
国際

## 駐日コロンビア大使が 山口学長を表敬訪問

5月9日、駐日コロンビア共和国ガブリエル・ドゥケ特命全権大使一行が本学を訪問し、山口宏樹学長、中林誠一郎副学長(国際担当)らと懇談を行いました。懇談では、学術交流などを通じた連携強化について、活発な意見交換があり、今後の交流に期待が寄せられました。午後には開催された講演会「今日のコロンビア情勢：文化・経済・社会」では、ドゥケ大使から同国の多様な文化性や豊かな自然、また成長を続ける経済状況における平和実現への取り組みなど、幅広い話題について語られました。最後に学生に向けて、「好奇心を持ち続け、見聞を広げることが大切です」とメッセージを送られました。



▲ 講演するドゥケ大使

14  
教育  
地域

## アトレ浦和 × 埼玉大学! 学生が浦和地域の魅力づくりを提案

6月9日、アトレ浦和と連携した「課題解決型短期インターンシップ」(全8回)の最終講義が行われ、学生が浦和地域の魅力づくりを提案しました。この連携は、アトレの使命である「駅と街をつなぐ」をテーマに、地域の課題解決の手助けや活性化を促す活動を通じて“その地域に貢献する”考えと、本学の教育研究機関として人材育成や共同研究を通じて地域に貢献するという基本方針がマッチングして始動。本学は、学生の将来の社会的・職業的な自立に向け、キャリア形成を促す教育プログラムとして取り組みました。今回の提案は、アトレ浦和が発行する情報紙「U LaLa(うらら)」の8月・10月・12月号に掲載されます。同紙は、アトレ浦和のHPで公開のほか店舗内などで配布されます。



▶ プレゼンテーションする学生たち

16  
国際

## 駐日モロッコ王国大使が 山口学長を表敬訪問

5月10日、駐日モロッコ王国ラシャッド・ブラル特命全権大使が山口宏樹学長を表敬訪問し、市橋秀夫教養学部長、加藤基コーディネーターと懇談を行いました。懇談では、学術交流などを通じた連携強化について活発な意見交換がありました。本学は、今年1月モロッコのムハンマド5世大学長らモロッコ教育関係公式代表団の来訪を機に、同大学との学術交流協定締結に向けて準備を進めております。モロッコは、ヨーロッパ、アフリカ、中東の交差点に位置していることから、日本企業も多く進出し産学連携も盛んなため、今後様々な分野で交流が行われることが期待されます。



▲ 握手を交わすラシャッド大使と山口学長

## 17 国際 ベトナム SATREPS プロジェクト 関係者が山口学長を表敬訪問

大学院理工学研究科は、埼玉県環境科学国際センターおよび国立環境研究所と共に、科学技術振興機構や国際協力機構が共同実施する地球規模課題対応国際科学技術協定プログラム (SATREPS) プロジェクト (平成 29-33 年度実施、研究課題「ベトナムにおける建設廃棄物の適正管理と建廃リサイクル資材を活用した環境浄化およびインフラ整備技術の開発」、代表：川本健教授) に採択されました。この事業は協定校のベトナム国立建設大学と共同で取り組むものであり、その一環として、ミン同大副学長ら 8 名が 6 月 7 日に来学し、山口宏樹学長を表敬訪問しました。対談では、今後の活動計画及び技術者、



大学、政府機関が協力しプロジェクトを進めることの重要性について語られました。

◀ 前列左から  
ミン NUCE 副学長、山口学長

## 18 国際 環境科学・社会基盤国際プログラム 留学生歓迎パーティーを開催

6 月 9 日、大学院理工学研究科環境科学・社会基盤国際プログラム (社会基盤創成コース) に入学した留学生の歓迎パーティーを開催しました。同プログラムは、文部科学省「国費外国人留学生の優先配置を行う特別プログラム」の事業として採択され、2006 度より毎年留学生を受け入れています。今回は、2016 年 10 月及び 2017 年 4 月の新入留学生 (出身国：アジアおよびアフリカ 12 か国) 22 名を含む在学留学生 45 名のほか、日本人チューターや教職員など、総勢 63 名が参加し、親睦を深めました。



▲ 参加学生たちと記念撮影

## 19 大学 「埼玉大学 Action Plan 2016-2021」を公開しました

埼玉大学では、第 3 期中期目標期間 (2016-2021) のビジョンとして「埼玉大学 All in One Campus at 首都圏埼玉～多様性と融合の具現化～」を掲げ、知の府としての基盤強化と、首都圏埼玉に根ざした埼玉大学の個性化を軸として機能強化に取り組んでいます。この度、本機能強化構想をまとめた「埼玉大学 Action Plan 2016-2021」を本学 HP に公開しました。文系、理系、教員養成系の多様な学部と学問が、日本人、外国人、社会人の多様な学生と教職員が 1 キャンパスに集まる埼玉大学。大学として普遍的な知の府としての基盤強化と、地域活性拠点として首都圏埼玉に根ざした埼玉大学の個性化を 2 軸に機能強化を進め、一層輝きを増していきます。



▲ 埼玉大学  
Action Plan 2016-2021

埼玉大学マスコットキャラクター  
**メリンちゃん**  
LINE スタンプ

発売中!

QRコードはこちら

## 埼玉大学基金室より 埼玉大学基金のご案内

埼玉大学基金は平成 25 年 11 月の設立以来、皆さまからのご理解とあたたかきご支援をいただいております。

昨年末には新たに、経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援を行うことを目的とした、特定基金「埼玉大学修学サポート基金」を設立し、右図のような構成となっております。

ご寄附の方法として、金融機関からの振込・払込のほか、指定の月に決済が行われる継続寄附も可能なクレジットカード決済をご用意しております。また、不要となった本や DVD をお送りいただくことで、その査定額をご寄附いただける古本募金「きしゃぼん」を導入しております。

詳細は下記ホームページをご覧くださいませようお願いいたします。今後とも埼玉大学基金へのご理解とご支援をいただけますよう、心よりお願い申し上げます。

埼玉大学基金室 (広報渉外室内) ☎048(858)9330 ✉s-kikin@gr.saitama-u.ac.jp 🌐http://www.saitama-u.ac.jp/funds/  
古本募金「きしゃぼん」についてはホームページの「お申し込み方法」(http://www.saitama-u.ac.jp/funds/pay/) から「3. 古本募金」をご参照ください。

目的 1	特定重点事業の推進 埼玉大学インターナショナルレジデンス (国際学生寮) 新設事業	埼玉大学創立 70 周年 (平成 31 年度) 記念事業
目的 2	埼玉大学の機能強化等将来構想実現に向けた中・長期戦略事業 教育・研究・学生支援、国際交流支援、社会連携支援	
特定基金	埼玉大学修学サポート基金 経済的な理由により修学に困難がある学生に対する支援	

### ◆埼玉大学基金のご報告

平成 29 年 7 月末の状況 **353,416,440 円**  
うち古本募金「きしゃぼん」によるご寄附 **201,224 円**

